

施策3 多様な人の社会参加に対する理解を促進する
取組項目1 学び合いで、個性をのばし、感性を育む

[事業番号 33]

多様な人との相互理解の促進

1 事業内容

高齢者、障害者、子育て世代、外国人など、多様な人々が気軽にまちに出て交流を行うためには、公共交通施設や道路、建物などのバリアフリー整備や相互理解など、どんなことが必要なのかを学び、理解を深めることが必要である。

だれもが地域の一員として快適に生活できるよう、ともに支え合い、自由に社会参加できるまちの普及啓発に取り組んでいく。

2 平成31年度末目標

相互理解のための小冊子の作成

3 事業のスケジュール（予定）

多様な人との相互理解の促進に向け、年度ごとにテーマを設けて普及啓発のための小冊子を発行

	28年度	29年度	30年度	31年度
多様な人との相互理解の促進	小冊子の作成・発行	小冊子の作成・発行	小冊子の作成・発行	小冊子の作成・発行

※各年度のテーマ（31年度は未定）

平成28年度 移動等、物理的バリアのある方への理解を深める

平成29年度 情報・コミュニケーションにおいてバリアのある方への理解を深める

※小冊子「お互いの理解のために2 私にできるちょっとしたこと」参照
平成30年度 多様な方への対応・配慮等について理解を深める(予定)

4 平成 29 年度小冊子の作成・発行に向けた取組

(1) ワークショップの開催

参加者：障害当事者、福祉のまちづくりサポーター

	日程	内容	参加者
第 1 回	平成 29 年 6 月 12 日 (月)	情報・コミュニケーションについて、多様な人のニーズ収集を行った。	16 人
第 2 回	平成 29 年 7 月 13 日 (木)	第 1 回のニーズ収集結果に基づき、庁内の実地確認を行った。	24 人
第 3 回	平成 29 年 9 月 14 日 (木)	第 1 回、2 回で得た結果を受け、区が作成した小冊子のたたき台の内容について、意見収集・意見交換を行った。	20 人

(2) 福祉のまちづくりサポーター研修での活用

日 程：平成 30 年 1 月 15 日 (月)

参加者：36 人

内 容：小冊子（案）を使用し、音声情報、文字情報、図記号（ピクトグラム）など情報・コミュニケーションのバリアフリー等を取り上げて、自分にできる“ちょっとしたこと”について学んだ。

福祉のまちづくりサポーターとは

ひとにやさしいまちだけでなく、ひとがやさしい社会の実現に向けて、区と協働で福祉のまちづくり活動を推進する区民等。研修や区が実施する事業に参加し、区民の目線で意見・アドバイス等の協力を行う。

5 担当課

福祉部管理課